

成功のキーワードは“共生力”

～プロゴルファーとして、社会の一員として～



●講師

プロゴルファー
丸山 茂樹 氏
SHIGEKI MARUYAMA

●Profile

1969年千葉県生まれ。日本大学で活躍し、アマ37冠を達成して92年にプロ入り。「マルちゃん」の愛称で親しまれ、日本ツアーでは通算10勝。2000年からPGAツアーに本格参戦し、通算3勝を挙げる。現在はゴルフ中継の解説者をはじめ、様々なメディアで活躍するかたわら、一般財団法人丸山茂樹ジュニアファンデーションの代表理事として、ジュニアゴルファーの育成に注力。2016年リオデジャネイロ五輪ではゴルフ日本代表ヘッドコーチを務め、2020年東京五輪でもヘッドコーチを務めた。

社会の情報化がゴルフ界に 新時代をもたらす

近年のゴルフ界を振り返ると、渋野日向子選手を筆頭に、松山英樹選手、笹生優花選手と、日本人選手が海外メジャー大会で立て続けに優勝を果たし、まさに時代が変わったという印象があります。これからゴルフ界を担う子供たちにとっても、目指すべき世界がはっきりと見えてきたのではないでしょうか。

これまでとの大きな違いは、やはり情報力。インターネットを通じて、大会の結果はもちろん、理想のスイングやトレーニング法など、世界中の情報が瞬時に入手できる時代を迎えています。ゴルフに限らず、近年、世界を舞台に活躍できる選手が増えているのは、こうした情報力の影響

が大きいと思います。

私たちの時代だと、すべて自分で工夫するしかなかったので、スイングも個性的。遠くから見ても誰だかわかりましたが、今は誰が打っているのかわからないほど、みんなスイングが正確で美しい。ジュニア世代の子供たちも、タイガーウッズをはじめ、理想とされる選手のフォームを見て、そこに近づこうと努力した結果、教科書通りのスイングを再現できています。

メンタル面でも、時代の変化を感じます。私たちが喜怒哀楽を前面に出していたのに対して、今は淡々とプレーする、クールな選手が増えていると感じています。携帯やSNSの時代なので、1人の世界観を作りやすくなっているかもしれません。もちろん、内に秘めた気持ちは強く、練習姿勢も非常にストイックで感

心させられます。特に松山選手は、ラウンド後は休憩も挟まず練習場に直行し、最後まで残っているほど。その分、マスコミへの対応がそっけなく思われることもあるかもしれませんのが、それはプレーや練習に集中したいという思いからだということを理解してあげてほしいですね。

ゴルフは自然との共生力が問われるスポーツ

ゴルフというスポーツは、よく「自然との戦い」と言われます。私たちゴルファーは、風が吹いたり、雨が降ったり、暑かったり寒かったりと、日々異なる自然の表情と向き合わなくてはなりません。また、世界各地のゴルフ場も、地域によって気候や風土、自然環境が異なります。時には厳しい環境にもさらされますが、自分でそこに手を加えることは許されません。与えられた環境を受け入れ、その中でベストを尽くす。まさに「共生する」という姿勢がなければ、決して

良いスコアは出せないでしょう。特に海外ツアーに参加する場合は移動距離も長く、年間30試合で地球を6周するほどで、体調管理の難しさを感じます。時差ボケはもちろん、ひどいときは平衡感覚がおかしくなることもありますが、厳しい状況の中でも、メンタルを維持し、自分がなすべきことをしっかりやる。そうした対応力が問われる厳しいスポーツだということを知っていただければありがたいですね。

社会との共生もゴルフ界の重要なテーマ

ゴルフ界、特に海外では、自然環境との共生はもちろん、社会との共生も重要なテーマになっています。例えばPGAツアーでは、環境保護の取り組みに加え、慈善団体など各方面への寄付活動も積極的に行ってています。これまでの寄付金総額が4,000億円を超えると言われていて、スポーツ界でもトップクラスです。

こうした寄付金などのチャリティ活動は、もちろん世界中の方々がPGAツアーを見てくれているから生まれるものですが、それを社会に還元していくという姿勢があってこそ。また、どれだけ利益があって、どれだけ寄付したかが、選手や外部にきちんと報告されている透明性も、見習うべきところだと思います。

日本に比べて、寄付金の税制やドネーション（寄付・寄贈）の制度が充実しているという側面もありますが、それ以上に「ボランティア」という概念の浸透が大きく影響していると思います。米国では、子供の頃からボランティアについて教育されていて、当たり前のように根づいています。だからこそ、日常生活の中で惜しみなくその精神を發揮できるのでしょう。日本だと、どこか「自己犠牲」のような捉え方をされていますが、少し意味が違うと感じています。

例えば、米国ツアーで地方の空港に到着した際、たとえ夜中でもボランティアの方が迎えに来てくれ、それ

も喜んでやってくれているのが、表情から伝わってきます。自分の行動によって社会に貢献できていることが喜びになっているんですね。これはまさに「共生力」ではないでしょうか。

衝撃的だった アースカフェとの出会い

「自然との共生」というテーマで、1つ紹介したいのが「アースカフェ」を日本に輸入したことです。もともとはロサンゼルス在住時に、近所に美味しいコーヒーがあると聞き、毎日通うようになったお店で、「これを日本でも飲めるようにしたい」と思ったのがきっかけです。オーナーに手紙でラブコールを送り続けて、4年経つてようやく会えた際に、そのコンセプトを聞いて衝撃を受けました。

このカフェの特徴はオーガニックコーヒーですが、100%無農薬栽培というだけでなく、品種改良をしていない原種・原木から採取した豆を使っています。なぜかというと、産

地であるウガンダの原種・原木を守ることが、そこに生きるマウンテンゴリラを絶滅から守ることにつながっているからなんですね。その話を聞いて、改めてこのコーヒーの美味しさ、そしてそこに込められた理念を紹介したいと思い、その気持ちが通じて2013年に日本1号店が代官山にオープン。今では7号店まで拡大しています。

アースカフェに対する社会からの信頼は非常に高く、治安の悪いダウントンにオープンしたところ、その味や理念に惹かれて多くの人が集まり、周囲が再開発されるほどの影響を及ぼしたほど。今は日本でも味わうことができますが、コロナ禍が落ち着けば、ぜひ、本場を訪れてほしいですね。

環境とも人とも共生する姿勢を大切に

私たちゴルファーは、自然との戦いに加えて、毎日のように異なる国

や地域で、異なる人たちとプレーしています。ゴルファーに限らず、ビジネスの世界に生きる皆さんにも、程度の違いこそあれ、似たような側面があるのでないでしょうか。

そうした日々を過ごすうえで、自分一人の力だけで結果を出すということは、ほとんどないと思います。自分を取り巻く環境の力を借りたり、周りの人たちと協調や連携したりすることで、色んなビジネスのアイデアや新しい価値が生まれてくるものです。自分は決して一人で生きているんじゃない。だからこそ、周囲の環境や人々を味方に付けていく力、「共生力」を高めていくことが、成功につながるんじゃないかと常に思っています。

皆さんも、ぜひこの「共生力」を大事にして、環境とも、人とも共生していただければ、皆さんの人生も、そして皆さんが生きる社会も、より理想に近づいていくのではないでしようか。

オンライン配信の様子

